

2025.7月号

おすすめ本

をご紹介します

「1回で2万円稼げるバイトがあるんだけど」と誘われたら、どうしますか？一度手を染めたら簡単にやめられない闇バイトについて、紹介しながら、身を守るための行動をマンガでわかりやすく解説。



『本当に危ない闇バイトの話』
廣末 登／監修 芳賀 恒人／監修
金の星社

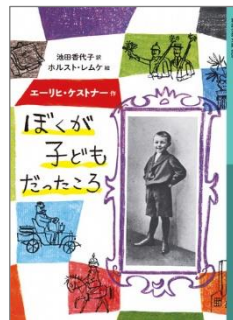
職場体験のために博物館を訪れた5人の中学生は、くじ引きで魚類、鳥類、哺乳類、古脊椎、無生物の部門に分かれて仕事を手伝うことに。希望と違った体験先“ヴンダーカンマー”での特別で忘れられない体験を描いた物語。



『ヴンダーカンマー』
樫崎 茜／著 上路 ナオ子／画 理論社

「いちばん大切なのは、楽しかろうが悲しかろうが、子ども時代だ。忘れられないことは忘れてはいけない!」。

『飛ぶ教室』や『ふたりのロツテ』の作者エーリヒ・ケストナーの幼少期のエピソード。



『ぼくが子どもだったころ』
ケストナー／作 ホルスト レムケ／絵
池田 香代子／訳 岩波書店

ミドルスクール2年のヘイゼルは、今年こそ昨年の優勝者エラに勝ってスピーチコンテストで優勝するつもり。そんな時、同じクラスのタイラーがエラに嫌がらせしていることがいることがわかり…。ネットでの中傷やLGBTQなど現代の問題に立ち向かう、ヘイゼルの青春小説。



『はなしをきいて』
マギー ホーン／著 三辺 律子／訳
理論社

編集:袋井市立図書館